

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生活の主人公は利用者ご本人」「高齢になってもこれまで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」を理念とし、利用者ひとりひとりのその人らしい生活を支えるように努めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日の朝礼において理念を唱和し、理念を共有すると共に、理念を実践の中で生かすために日々取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はホーム内各ユニットに掲示し、パンフレット等にも掲載しているほか、家族会等においても理念を伝える機会を設け、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩の際にホームの隣近所に住む方々と顔なじみになり、あいさつを交わしたり、育てた花をいただくなど、日常的なつきあいをしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に参加し、グラウンドゴルフをプレーしている入居者がいるほか、地域のお祭りなどの行事には積極的に参加している。また、2か月に1度、Salon del Olympiaを開催し、地域の方々を招待する機会を作っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の方々を対象とした介護に関する勉強会「オリ ンピア福祉塾」を定期的で開催しているほか、 高齢者に気軽に相談してもらえる場を設けるな ど、「地域のケア拠点」としての役割を果たせる ように取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に関する情報は全職員で共有し、評価された 点については更なる向上を目指し、また改善が必 要と指摘された点については早急に改善を図るよ うに努めている。また、ユニット内でもサービ ス評価を実施し、改善点を発見することにより、質 の向上に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の生活の様子やイベン ト、ホームの取り組みなどを紹介し、参加者の意 見を運営に反映し、サービスの質の向上に努めて いる。運営推進会議にはご利用者にも数多く参加 していただき、生の意見を活かせるように取り組 んでいる。		
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	市関係者による見学を受け入れたり、市担当者を 訪問してサービスに関する議論の場を持つなど、 サービスの質の向上に取り組んでいる。また、館 長が市の研修で講師を務めたり、当ホームで実習 生を受け入れたりし、ホームの枠を超えた取り組 みを行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	顧問弁護士を講師とした職員研修を実施し、管 理者を含め職員が地域福祉権利擁護事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持っている。また、ケ ースに応じてこれらの制度を実際に活用している。		全ての職員が制度について理解をより深めるこ とができるように、引き続き取り組んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修や事例検討を実施し、職員の意 識を高めることによって虐待が見過ごされるこ とがないように注意を払っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退居に際しては、ご家族と複数回お話をする機会を持ち、不安や疑問について理解していただいた上で契約・解約をするように努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に対し、意見や苦情を言うことができるように、居室などで1対1でお話をする機会を設けている。また、運営推進会議にも利用者の方々に数多く出席していただき、意見を運営に反映できるように取り組んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り、家族会などの機会を活用して定期的にお伝えするほか、家族がホームを訪れた際には、写真やビデオなども活用しながら日々の暮らしぶりを個々にお伝えしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の訪問時、運営推進会議、家族会などの機会を活用し、意見などを言いやすい雰囲気作りに取り組んでいるほか、寄せられた意見や苦情については、運営者も含め職員で共有し、実践に活かしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット毎のカンファレンスに加えて、リーダー会、主任会、職員会、個人面談など、職員の意見をくみ上げられるように、法人全体として取り組んでいる。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の生活のリズムに合わせた職員配置を行っているほか、行事などの際には柔軟に対応している。また、管理者は基本的に通常の勤務シフトに入っておらず、その日その日の状況の変化にも対応できるようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員は各ユニットに固定し、利用者と馴染みの関係を構築できるように配慮している。異動や離職に際しては、馴染みの職員を配置するなど、影響を最小限に抑える努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修・新入職員OJT・認知症ケア研修・非常災害対応研修・若手リーダー育成研修・中堅職員研修などの内部研修を数多く実施するほか、各種の外部研修などを活用し、職員の能力の向上を法人として全面的にバックアップしている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの訪問・実習などを積極的に受け入れているほか、他の施設を訪問する機会も設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。さらに、館長が認知症介護サービス事業者対象の研修の講師を務めることにより、他施設との情報交換も行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	良いケアのためには介護者のケアも重要との認識を管理者やユニットリーダーが持ち、日々の業務の中や面談においてストレスなどを把握するように努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員ひとりひとりに能力を最大限発揮してもらうことを目標に、努力や実績を積極的に評価するように取り組んでいる。また、各自の向上心を引き出すために、幅広い活躍の場を用意している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に実施する面接によって本人の希望や要望を把握するほか、入居直後は特に職員が関わる機会を増やし、本人の思いを受け止めることができるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居面接においては家族の思いも十分に聴くようにし、また入居後もご家族からお話を伺う機会を多く設け、その思いを受け止めケアに活かすことができるように取り組んでいる。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときにはグループホーム入居のみを前提として対応するのではなく、本人と家族にその時点で適切なサービスの選択肢を示し、説明するようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては、事前に訪問してもらうなど、馴染みの関係の構築に取り組んでいる。また、併設のデイサービスやショートステイの利用を通して、職員や利用者となじみの人間関係を築き、安心して入居できるように支援したケースも少なくない。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、日々の喜びや悲しみを共有できる関係を目指している。また、職員は料理や掃除などの家事をはじめ、利用者から生活の知恵を学ぶことも多く、支え合う関係を築いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族との日々の話の中で、心情や健康状態をうかがい、少しでも気持ちが楽になってもらえるように努めている。また、利用者のケアに関しても、共に支え合う関係の構築に努めている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、行事・通院時、家族会などの機会を活用し、これまでどのように利用者のご家族が関係を構築してきたのかお聞きし、理解に努めている。また、ホームでの利用者の様子や思いをお伝えすることなどにより、利用者との家族のより良い関係の支援を行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの場所や人を訪れる機会を設け、関係継続の支援をしている。また、入居前から地域のグラウンドゴルフに参加していた利用者は、入居後も継続していただいている。		遠方の馴染みの場所や、ホームから離れた場所で暮らしておられる馴染みの人との関係の支援にも、引き続き取り組んでいきたい。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩などの外出時、また日々の生活の中においても、できるだけ利用者がみなさんで過ごすことができるように配慮している。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、法事などの節目には連絡を取り、お会いさせていただく機会を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、利用者ひとりひとりの思いを把握するように努めている。また、意思の疎通が難しい方については、ご家族や知人・友人などの協力を得て、ご本人の立場に立って検討するように取り組んでいる。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアにおいてはこれまでの生活歴を大切にしている。入居の際に自宅を訪問し、ご本人やご家族からお話を伺うほか、入居後も情報を得て、より良く知る努力を続けている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の生活の中で、職員が利用者ひとりひとりの状態を、ご本人の視点に立つことにより全体的に把握できるように努めている。また、細かいことでも気づいたことがあれば職員間で情報を共有するようにしている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人の希望、ご家族の願い、医師のアドバイスなどを考慮し、利用者に関わるすべての人の力を合わせて、本人にとってより良い介護計画を作成するように取り組んでいる。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとに介護計画の評価を行い、日々のケアの中で観察した利用者の身体状況や生活面の情報をもとに見直しを行っている。また、見直し期間以前に起きた変化については、随時関係者によるミーティングを行い、検討するようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	おひとりおひとりの日々の様子を日誌に的確に記録するのはもちろんのこと、ちょっとした気づきや実践についても申し送りノートなどを活用して細かく記録し、職員間で情報を共有するようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームにショートステイとデイサービスを併設することにより、多機能性を生かして、利用者ひとりひとりのニーズに応じたケアを提供できるようにしている。デイ・ショートの利用からグループホームの入居につながったケースも少なくない。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議などを通して、民生委員や地域の方々と情報を交換したり、利用者の日々の生活を豊かにするための協力を得たりしている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
41 他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設のショートステイ・デイサービスにおいて顔なじみの利用者の方と日中一緒に過ごしたり、外出や行事においても協力しながら行っている。		居宅介護支援事業所の協力も得て、地域のインフォーマルサービスなども今以上に活用できるように、取り組みを進めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員にも運営推進会議のメンバーになっていただき、専門的な見地からのアドバイス、支援などをしてもらっている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ひとりひとりの能力に応じて、食材を切ったり、味付けをしたり、盛りつけをしたり、調理にも積極的に参加していただき、みんなで作り、食べる喜びを共有している。後片付けに関しても、利用者と職員と一緒に行うということを大切にしている。</p>	
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入際にご本人・ご家族から本人の嗜好について聞き取りを行うほか、入居後も続けて情報を収集し、日々の生活の中で楽しむことができるように配慮している。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>ひとりひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに適切なケアを羞恥心にも配慮しながら行っている。</p>	<p>排泄ケアの専門家を交えた勉強会やケース検討会を実施し、利用者ひとりひとりの残された力を更に向上させていくよう取り組みを始めた。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1日の中においても、朝・昼・夜と利用者ひとりひとりの希望の時間に入浴していただけるように支援している。時にはスタッフが一緒に入浴し、楽しみを共有できるようにも取り組んでいる。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜にゆっくり休んでいただけるように、昼間の生活、就寝前のリラックスなど、生活全体をトータルで捉えて支援している。一律の就寝時間などは設けず、ひとりひとりの生活のペースを尊重している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者ひとりひとりのこれまでの人生をよく知り、謡曲、手芸、歌、料理、買い物などの楽しみごとや、ホーム内の案内、語学力を生かした外国からのお客さんの応対などの役割をもってもらうことを支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さを理解し、利用者ひとりひとりの状況に応じて所持していただき、日々の生活の中で、おやつやパンなどちょっとした買い物などを楽しめるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園、ホームセンター、喫茶店など、利用者ひとりひとりの希望に応じて、毎日外出できるように支援している。また、雨の日など外出しにくい状況であっても、併設の喫茶店や事業所を利用するなど、ホーム内に閉じこもらないように努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ハワイ旅行、淡路島旅行など、利用者ひとりひとりの行きたいところに家族や職員とともに出かける機会を積極的に設けている。		これからもひとりひとりの夢や希望を叶える手助けを継続していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が好きなきに家族や友人に電話できるように支援しているほか、年賀状や暑中見舞いなど、時候に応じて手紙のやり取りができるようお手伝いをしている。		普段からも積極的に手紙のやり取りができるように、より進んだ支援をしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員が笑顔であいさつやお話をし、気軽に来ていただける雰囲気作りに取り組んでいるほか、訪問された際には、他の利用者にも紹介したり交わりの機会を持つなど、心地よく過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	ホームとして身体拘束をしないケアに取り組むために、法人内研修を実施し、職員ひとりひとりの意識を向上させるとともに、個々のケースにおいてはカンファレンスなどで検討している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>より安全で安心していただくことのできる場を目指して、さらに取り組みに力を入れていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>今後も継続して研修を受講したり、知識をブラッシュアップすることによって、意識を高めていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作り、随時確認するようにしているほか、感染症に関する内部および外部の研修を受講することにより、日々の予防や対応に生かしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に関するマニュアルを作り、随時確認しているほか、日々の生活の中でも、台所や調理器具の状況に応じた衛生管理、安全な食材の利用に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	各ユニットにそれぞれ玄関を設け、来客者が気持ちよく、気軽に訪問できるような雰囲気作りを行っている。また、ホームの周囲も「施設らしさ」を排除し、気軽に立ち寄れるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などの共用空間には利用者とともに季節の花や写真をかざったりし、生活感や季節感を演出するようにしている。また、自然の音や光をうまくいかすことによって、居心地の良い空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも、大勢で賑やかに過ごせる場所、2・3人でゆっくり過ごせる場所、そしてひとりで静かに過ごせる場所を作り、利用者の居場所を数多く設けるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

たとえ高齢になっても、認知症になっても、その方らしく尊厳ある生活を送ることができるお手伝いをさせていただくことを理念とし、「パーソンセンタードケア(その人中心のケア)」に取り組んでいる。職員は利用者ひとりひとりのこれまでの人生や現在の思い、心身の状態などをよく知ること努め、日々のケアの中で活かしている。さらに、日々の生活の中で役割や責任を持っていただくことにより、「生きがい」を感じながら暮らしていただけるように支援している。また、利用者おひとりおひとりが人生の締めくくりの場所を過ごす場としてふさわしいように、いままで温めてこられた夢や希望にチャレンジするお手伝いも行っている。